



ippo(いっぽ)

【研究主題】 キャリア教育の視点で小・中・高を貫く教育課程の編成
～学部間をつなぐ仕組みを活かした取組～

..... 第1回 県央3校連携研究会

この会は、昨年度から本校を会場に実施している研究会で、栗田支援学校、ゆり支援学校、本校の教務主任と研究主任で組織しています。本研究会のねらいは、本校（研究推進校）の教育課程改善や研究推進のため、研究協力者として情報提供や意見、助言をいただくことです。

今年度の第1回目を7月21日に行い、現在取り組んでいる『ワーキンググループ』についての意見をいただいたり、他校での取組を紹介していただいたりしました。

Q 他学年、他学部の年間指導計画に対する意見交換を行うことで、担任の個性を損なうことにならないか？また、助言により、授業が委縮することはないか？



- 担任の個性にとられるあまり、児童生徒の実態が変わっても同じ指導を行うケースもある。どういう力を付けたくてその指導を行うのかを確認することが大事である。
- 意見交換の際は、授業者の考えを尊重し、指導計画の意図を周囲が理解することを大事にしている。

Q 学部間のつながりを深める方法として、他校ではこういった取組をしているか？



<ゆり支援>

- **授業改善プロジェクトチーム**（教育専門監、研究主任、各学部副主事、地域支援部主任、初任者指導教員、各学部研究部員）が、各学部の年間指導計画（研究対象）の検討会に加わり、柱となる単元へのアイデアを出し合っている。30分枠で実施した。このメンバーは、全学年の年間指導計画を見ているので、系統性を意識してアドバイスできる。
- 作業学習で中高連携を図る。互いの作業製品を見合って意見交換をする。

<栗田支援>

- **授業アドバイザー**（教育専門監、年次研主任、研究主任）が、各学部の研究対象となる中心単元について助言している。
- 職員数が多いため、全校授業研究会の実施が難しい。各学部授業研究会を実施するに当たり、希望を取って他学部参観を行っている。

★ 学校の特色や実情に応じて、各校が工夫していることが分かりました。他校の取組を参考にしながら、今後も学部間のつながりを深める取組を充実させていきましょう。